

## マーケット概況（2021年1月）

1月の債券相場は、10年360回債の利回りが昨年末比変わらずの0.020%で始まったが、新型コロナウイルス感染拡大への対応として、首都圏1都3県を対象とした緊急事態宣言が発出されるとの報道を受け、5日には0.010%まで低下し、債券先物3月限は152円05銭まで上昇した。しかし、米国ジョージア州上院選の決戦投票で民主党の優勢が伝わると、民主党政権下での景気刺激策拡大への期待から、日米ともにリスクオンの流れとなり、NYダウ平均株価は過去最高値を更新し、日経平均株価も1990年以来の高値を付けるなど株高、債券安となった。16日に日銀が3月の金融政策決定会合で長期金利の変動幅を拡大する可能性があるとの報道があったことから、週明けの18日に債券先物3月限は一時151円56銭まで下落し、現物債も30年69回債は2019年1月23日以来となる0.675%まで上昇した。売りが一巡したことで19日の20年債入札は無難に通過したが、その後も超長期ゾーンは上値が重くイールドカーブはスティープニングした。29日には日銀より発表された2月の国債買入れ予定が、中期債の減額を示唆するものであったことから、債券は売られ、10年361回債は2020年8月28日以来の安値となる0.055%で今月の取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は、概ね-0.08%~-0.09%台で推移していたが、月末の入札後に低下した。5日の3M962回債入札では最高落札利回りが-0.0820%と前月債から小幅上昇してスタートした。15日の3M965回債入札は発行額が6,000億円減額となった影響により-0.09%台に低下したものの、22日の3M968回債・29日の3M969回債入札では-0.08%台に上昇した。その後セカンダリー市場で買いが強まったことで金利低下し、最終的に-0.110%で取引を終えた。6M金利は、-0.08%~-0.10%台を中心に推移していたが、月末は3M金利に連動して低下し、6M967回債は-0.115%で取引を終えた。1Y金利は、月を通して概ね-0.12%台で安定的に推移し最終的に1Y966回債は-0.127%で取引を終えた。

### <一般債市場>

10年政保債の спреッドは国債カーブ+5.0bpと前回の12月債と同spreッドを維持した。一方10年地方債は同+8.0bpと前月比1.0bp縮小し2015年4月(同+6.5bp)以来の最低水準となった。2ヵ月連続でspreッドが10bpを下回ったものの、クーポンの絶対値は0.100%を維持したことから旺盛な需要が見られた。既発債の需給は安定しており、spreッドに大きな変動は見られなかった。社債の発行額は6,278億円と直近5年間の同月としては平均並みの水準だが、月末に大型起債が集中したことで、起債額(2月払い込み分を含む)は21年振りに1兆円を超え起債額上位3社はいずれも劣後コーラブル債が占めた。電源開発は初となる環境債を起債し需要を集めた。ESG関連債(財投債等を含む)の今年度発行額は、前年度を大きく上回る見込みである。

### ◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#361	0.020(6日)	0.020(6日)	0.055(29日)	0.055(29日)
#360	0.020(4日)	0.005(6日)	0.035(18日)	0.035(29日)
#350	-0.085(4日)	-0.095(21日)	-0.070(18日)	-0.075(29日)
#145-#146(5Y)	-0.115(4日)	-0.125(25日)	-0.100(18日)	-0.110(29日)
#174-#175(20Y)	0.395(4日)	0.390(5日)	0.455(29日)	0.450(29日)
#959-#967TDB(6M)	-0.080(7日)	-0.115(29日)	-0.080(7日)	-0.115(29日)
#961-#969TDB(3M)	-0.085(5日)	-0.110(29日)	-0.082(7日)	-0.110(29日)